


すみだトリフォニーホールのあり方（案）について（修正内容）

修正案	修正前 (令和3年度墨田区議会定例会9月議会 地域産業都市委員会報告資料内容)
<p><u>8頁</u></p> <p>4 ホールを取り巻く状況 (3) 近年の事業展開 [一部略] 削除</p> <p><u>8頁</u></p> <p>5 これまでの課題</p> <p>ホールが今後もすべての区民に文化的豊かさを与える財産であり続けるためには、これまで以上に多くの区民に親しまれるとともに、区外から憧れられ、訪れたいと思われる施設となっていかなければならない。そのためには、ホール等における取組実績のPRだけでなく、企画の内容や、子どもを含む参加者自身の声や反応を広く発信し、<u>ホールを身近に感じられる機会を、より多彩に創出していくことが求められる。</u></p> <p><u>あわせて、非日常的空間とそこで味わえる豊かな文化芸術を求め、区内外から多くの人々が来場するホールの存在が、周辺の賑わいづくりに資するものであることを再認識し、更に、日本を代表するホールとして、そのブランド力を向上させ、生活に豊かさや潤いをもたらす文化芸術の持つ力を積極的に活用するための拠点としていく必要がある。</u></p> <p><u>9頁</u></p> <p>6 今後のホールのあり方</p> <p>ホール等における近年の取組の成果を踏まえつつ、施設の特性や区を取り巻く現状、文化施策の方向性を総合的に勘案し、<u>次のビジョンを掲げ、そのために必要な今後のホールのあり方を示す。</u></p> <p>ホールを核とした文化芸術の力で、地域力の高い魅力ある都市すみだをつくる。</p> 	<p>4 ホールを取り巻く状況 (3) 近年の事業展開 [一部略]</p> <p><u>しかしながら、ホールが今後もすべての区民に文化的豊かさを与える財産であり続けるためには、これまで以上に多くの区民に親しまれるとともに、区外から憧れられ、訪れたいと思われる施設となっていく必要がある。そのためには、ホール等における取組実績のPRだけでなく、企画の内容や、子どもを含む参加者自身の声や反応を広く発信し、ホールの非日常的な空間から得られる多面的価値を示していく必要がある。</u></p> <p>[新規]</p> <p>5 今後のホールのあり方</p> <p>ホール等における近年の取組の成果を踏まえつつ、施設の特性や区を取り巻く現状、文化施策の方向性を総合的に勘案し、<u>次の3つの視点に基づき、今後のホールのあり方を整理する。</u></p> <p>すべての人が文化芸術に触れ、豊かな感性と創造性を育むとともに、それにより生み出される価値を次世代に引き継ぐホールとする。</p> <p>福祉、教育、観光といった区政のあらゆる分野の課題の解決に貢献するホールとする。</p>

～今後のホールのあり方～

すべての人が文化芸術に触れ、豊かな感性と創造性を育むとともに、それにより生み出される価値を次世代に引き継ぐホールとする。

福祉、教育、観光といった区政のあらゆる分野の課題の解決に貢献するホールとする。

文化芸術のもつ創造性を活用し、区の魅力を高め、より一層の誇りと愛着を創出するホールとする。



～今後の事業展開～

区・新日本フィルハーモニー交響楽団・墨田区文化振興財団が一体となり、フランチャイズの歴史やこれまで培われてきたスタッフの豊富な経験を踏まえ、アウトリーチ活動を強化するとともに、バックステージツアーやオルガンコンサートといった「区民参加型」の事業を発展させ、ホールの魅力や優位性を最大限活かした事業を展開する。

誰もが気軽にホールに訪れ、文化芸術を楽しむことができるよう、音楽をはじめとした多彩なジャンルの公演を企画するとともに、最新のテクノロジーを活用することで、ホールに足を運ぶことが難しい障害者や妊婦の方なども公演を楽しめる環境づくりを進める。

SNSなど多様なツールによりホールの魅力を国内外に発信し、ホールのファンを増やす取組を強化するとともに、ホールへの来館をきっかけとし、すみだ北斎美術館をはじめとする本区の歴史や文化を広くPRし、観光施策と連携した取組を展開する。

7 今後の修繕の考え方  
別紙のとおり

文化芸術のもつ創造性を活用し、区の魅力を高め、より一層の誇りと愛着を創出するホールとする。



ホールを核とした文化芸術の力で、地域力の高い魅力ある都市すみだをつくる。

6 今後の修繕の考え方  
別紙のとおり